

令和7年度 環境教育学習

～森林観察～

概 要

鹿ノ台校区は良好な自然環境が整っている。その周辺緑地(12畝)は、ECOKA委員会によって里山風に整備され、春は山菜、サクラ並木やオープンガーデンの花々、秋はモミジ観賞等々。今では、地域住民の憩いの場として親しまれ絶好の野外活動のフィールドになっている。

鹿ノ台小学校5年生88名を対象に、「地球環境と森の役割」(座学)及び「シイタケ菌打ち・緑地観察」を2回にわたって実施した。

1回目は「地球温暖化と森林のかかわり・木の話」と題し、動物と植物の関係性を分かりやすく二酸化炭素を吸収し酸素を出す凄い力「循環」を持った「木や草」の大切さと木材の利用などを座学で講演した。

2回目は動植物との深い関わりを身近に体感し、クヌギの間伐材を活用した「シイタケ菌打ち」を体験し、綺麗に整備された緑地内を観察した。生徒たちは、鳥の鳴き声を聞きながらミツバチの巣箱を目の当たりにしたり、森や緑地管理方法等々。森の豊かさや凸凹な遊歩道を楽しみながら、自然との共生を五感で感じた環境学習に「シイタケ早く食べた～い！空気が美味し～い！面白かった～！」と、目を輝かせる生徒たち。楽しく有意義で貴重な体験学習は、きっと“心の財産”として深く長く残るであろう。

実施日:令和7年11月13(木)・令和8年2月5日(木) 実施団体:ECOKA委員会(鹿ノ台)



